

心のスイッチ



丹波市立柏原中学校
生活指導通信

No. 二十

令和五年十一月一日

(文責 足立 進)

文化祭に向けて

文化祭に向けての特別時間割りが始まった日は丁度、駅伝の丹波大会の日でした。

お昼過ぎに駅伝チームが帰ってきました。

男子は県大会の出場権が得られる六位、女子は八位で県大会の出場はなりませんでしたが、

しかし、女子も爽やかな輝く笑顔で帰ってきました。「やり切った」という思いが、そんな表情に出ていたのだと思います。

文化祭の合唱や演劇を終えた時にも、そんな「やり切った」という思いになつてほしいと願っています。

① ステージに立つのが楽しみになる準備を

先週、三年一組担任の高木先生が、給食の時間に、こんな連絡をされました。

「今日の合唱練習には、ゲストが登場します。ゲストは一年一組の生徒たちです。三年生の合唱を聴いて刺激を受けたいそうですので、みんな聴かせてあげてよー」

その連絡を受けてクラスは沸き立ちました。そして口々に「よっしゃーそれは頑張らなあかん」三年生のすごいと見せなあかん」と張り切っていました。

三年生は、どのクラスも、ステージに立つのが楽しみになるような準備をしているのだと思つています。

ステージに立つことからは、誰も逃げることはできません。どうせ立たなければならぬのなら、観客から褒めてもらえるように、みんなを仕上げて立つ方がいいと思います。

また、「あの子、恥ずかしそうに小さな声で歌つてる」って言われるより、「あの子、すごく堂々と歌つていてカッコいい」と言われる方が嬉しいと

思います。

あなたは、クラス合唱に、どれくらい本気で取り組んでいますか？

「素晴らしい合唱」は、歌が上手い人がいるかどうかではなく、本気の人がどれくらいいるか出来が決まってくるものです。

② 観客としての姿勢

柏原中学校は、どんな講演会の際も、必ず講師の方から、「見る姿勢」「聴く姿勢」の良さを褒めてもらっています。ですから、ここ数年間は、文化祭当日の朝に、諸注意を職員からすることはありませんでした。

今年も大丈夫だと思つていますので、よろしくお願いします。

そんな訳で、あまり心配はしていないのですが、最近の柏中生の別の特徴として、「サービスピリットが旺盛」「ノリが良い」というのもありますので、次の注意を一応書いておきます。

ステージ発表の際に、演者に対して、個人的な声援を送らないようにしてください。ステージは個人でつくっているものではないということと、演劇や合唱の世界観を大事にしななければいけないという観点からです。

よろしく願います。

③ 文化祭に向けて頑張っている生徒に贈る言葉

・世界に情熱なしで成就された偉大なものはなかったと確信する。(ヘーゲル 哲学者)
・成功するための最善の方法
それは、もう一度試してみることである。

(トーマス エジソン)
・逃げなかった」って記憶が欲しかったんだと思つています。(三月のライオンから)

・勇気は筋肉と同じで、使えば使うほど鍛えられる。(ルース・ゴードン・俳優)

文化祭当日のお願い

(保護者の皆様へ)

① 新型コロナウイルスやインフルエンザの流行は気になるところですが、一昨年のように観客の入れ替えや入場者数の制限はしません。また、昨年のように、「一家庭二名まで」という制限もありません。

ただ、会場内が密になる心配がありますので次の二点について、よろしく願います。

・頻繁に換気を行いますので、会場内は寒くなるのが予想されます。あたたかい格好でお越しください。

・手指消毒は、会場入り口でしていただけるように準備をしておりますが、マスク等はご自分の判断でお願いします。

② 武道館・多目的室・理科室の展示発表会場も入場制限を行います。

③ スリッパをご持参ください。

④ 駐車場は、基本的にグラウンドを考えています。(雨天時は別) 正門から入り、グラウンドに駐車してください。体育祭の時よりは余裕がありますが、なるべく乗り合わせでお願いします。

⑤ 生徒たちの頑張りを写真や動画に納めていただくのは嬉しいのですが、SNSに引用したり、サイトに投稿したりすることはしないという約束でお願いします。

ボランティアは自分のために楽しんで

三年生の「道徳」の教材に、「目の見えない人と一緒に美術館へ行って、作品と一緒に鑑賞する中で、いろいろと説明したり話したりする」



とで、思わぬ発想が得られたり、新しい発見があったりして、互いのプラスになつて楽しんでいく」というものがありました。「助けてあげる」とか「説明してあげる」ではないのです。

生徒会本部役員を中心に十月には「赤い羽根募金」や「かいばらいと二〇二二」のボランティアに参加しました。

勉強や文化祭に向けての準備も気になつてはいたのですが、楽しんで参加することができていたことはよかったです。

中学生がボランティアに、犠牲的精神だけで参加する必要はないと思つています。「自分のためにもなる」「自分が楽しむために」という気持ちが大変だと思つています。

こんな言葉があります。

他の人のために尽くすことは

他の人の犠牲になることではありません。

他の人と楽しむ人が、

他の人の役に立っているのです。(中山 庸子)

「じゃれ合いからケンカ」は情けないし危険です

「中学生なんだから、幼稚なじゃれ合いのような遊びは、もうやめよう」と、これまでにも何度も呼びかけてきたのですが、それが楽しいようで、なかなか止められない生徒がいます。

精神的には幼くても体は大きくなり、力も強くなつていくので、互いに楽しんでじゃれ合っているうちに、ケンカになつたりしていることがあります。そして、最後には保護者や先生に「相手の方が悪い」と訴えて、なんとかしてもらおうとする事案が十月に一、三年生の中で三件ありました。同じ生徒が何度も同じようなことを繰り返しています。これは、情けないことだと、そろそろ気付かなければいけないと思つています。

最近、「じゃれ合いから友達を死亡させてしまった大学生」のニュースもありました。情けなく、危険なじゃれ合い、止めましょう。